

第5章- ① - (4)地域計画で取組む具体的措置一覧表《その2》

区分	分野	方針	具体的措置										年次計画				
			★新規 ★継続	具体的措置の名称 <b>〔太字:優先度の高い事業〕</b>	関連する文化財	主体者							内容	前期 令和7~9年度 (2025-2027)	中期 令和10~13年度 (2028-2031)	後期 令和14~16年度 (2032-2034)	
						市	県	所有者	団体関係	事業者 民間	住民	地域					学校
[2]活用	(C)活用・普及	①地域ストーリー浸透のための普及活動実施	★	①地域ストーリー普及促進事業 (年度毎に地区を変えて継続実施)	全	● (文)		●	●		●	●	●	日本遺産「里沼」ストーリー、地域計画で明記した5つの特性と8つのサブストーリーを浸透させるため各種講座・ワークショップや向井千秋記念子ども科学館ROCKE T事業等を展開する。	○	○	○
		②定期的な文化財シンポジウム・セミナーの開催	★	②文化財シンポジウム・セミナーの開催	全	● (文・関)	●	●	●	●	●	●	●	館林市の文化財や歴史文化に関するシンポジウムやセミナー等を定期的に開催しながら、文化財愛護意識の向上や、地域が一体となった保存・活用に向けての足掛かりを形成する。	○	○	○
		③「文化財ルネツサンス」の開催数増加と周知強化	★	③「文化財ルネツサンス」の強化	指定登録	● (文)		●	●	●	●	●		館林市第二資料館にある旧上毛モスリンや武鷹館、旧二業見番組合事務所など指定・登録済みの歴史的建造物を活用したイベント(演奏会・展示会等)「文化財ルネツサンス」の開催を積極的に支援する。	○	○	○
		④文化財施設の運営維持と再整備	★	④施設リニューアルの促進・強化	施設	● (文)	●							館林市立資料館や田山花袋記念文学館など文化財関連施設の老朽化に対する改修や修繕、設備・機器の更新のみならず、建物や収蔵庫などのリニューアルを検討し、文化財の適切な管理と保存につなげる。	○	○	○
		⑤文化財施設整備・再編複合化の検討	★	⑤資料館・文学館集約複合化検討	施設	● (文・関)								コンパクトシティ形成・市施設管理計画に合わせて、館林市立資料館・田山花袋記念文学館の集約化による総合博物館新設に向けた構想を立て、資料保存管理機能や展示機能の充実を検討する。	—	○	○
		⑥文化財施設における魅力ある展示会等の実施	★	⑥資料館・文学館での魅力ある展示会等の開催	施設	● (文)		●	●					館林市立資料館や田山花袋記念文学館、武鷹館などの運営・公開を維持するとともに、魅力ある展示会・イベント・講座・ワークショップを開催して入館者数の増加に取組み、施設の魅力を市内外に発信していく。	○	○	○
		⑦市内ミュージアム施設同士の連携体制構築・強化	★	⑦館林ミュージアムネットワーク(TMN)の構築	施設	● (文)		●	●	●				博物館法改正を受け、市内にある市有・民間のミュージアム施設におけるネットワークを構築し、各施設の館長・スタッフ同士の連携や情報交換を強化し、将来的な共同事業を開催する。	○	○	○
		⑧文化財を見学できる機会の創出	★	⑧市内文化財一斉公開事業の創設	指定登録	● (文)	●	●	●	●	●	●	●	民有の指定・登録文化財所有者や文化財・ガイドボランティアの協力を得ながら、市内にある文化財を年1回程度、一斉に特別公開する機会を創設し、各々の文化財のもつ価値や魅力を伝える。	—	○	○
		⑨公共・民間施設における普及活動の展開	★	⑨「館林市どこでも博物館」の開催	全	● (文・関)		●	●	●		●	●	市役所市民ホールや学校・公民館などの公共施設、民間のショッピングセンターや店舗空きスペースなどを利用し、期間限定の展示会「館林どこでも博物館」の開催に取組む。	—	—	○
		⑩文化財の多言語化・ユニバーサル化推進	★	⑩解説サイン・パンフレットの多言語化	全	● (文)	●	●	●	●				文化財や日本遺産「里沼」関連の解説サインやパンフレット等の整備を順次進めるとともに、整備の際には多言語化なども行いながら、本市の歴史文化を世界へ発信していく。	○	○	○
		⑪魅力ある講座や展示解説会の開催	★	⑪魅力ある講座・展示解説会の開催	施設	● (文)								館林市立資料館・田山花袋記念文学館においては月1回程度、展示解説会を開催する一方で、田山花袋の随筆作品の朗読プロジェクトのような魅力ある企画・講座を開催し、入館者増加やリピーター獲得に取組む。	○	○	○
		⑫体験型プログラム創出による魅力伝達	★	⑫「里沼」体感！ワークショップ開催	全	● (文)	●	●	●	●	●	●	●	四季折々の観光イベントや日本遺産「里沼」と連動した体験型プログラムをワークショップとして創出・実施しながら、地域の歴史文化の魅力を伝える。	○	○	○
		⑬インターネットを使った文化財の情報発信・周知の強化	★	⑬文化財情報発信の強化	全	● (文)		●	●	●				WEBサイトやSNSを活用した積極的な情報発信を行い、文化財や本市の歴史文化、地域ストーリーの認知度を高めるとともに、地域住民や来訪者の興味関心を高める。	○	○	○
		⑭文化財を活用したロケの積極的な誘致	★	⑭フィルムコミッションと連動した文化財活用	全	● (文)		●	●	●				市や観光協会で検討しているフィルムコミッション設立に合わせて、歴史的建造物をはじめとした本市文化財のロケ利用を促進し、全国的なPRを図る。	○	○	○
		⑮学校・公民館等との連携・支援	★	⑮総合学習・出前授業との連携	全	● (文・生)		●			●	●	●	市内小・中学校での総合学習、公民館での出前講座と連携しながら、文化財や歴史文化、日本遺産「里沼」をPRし、地域住民に対して価値や魅力を伝達していく。	○	○	○
		⑯食文化の普及・継承と活用事業の展開	★	⑯「里沼」の食文化魅力発信事業	民俗	● (文・商)	●	●	●	●	●	●	●	麦・川魚・発酵食品など「里沼」を深いつながりのある食文化の魅力を伝えるため、PR媒体やレシピ集などの作成、イベント等を実施しながら周知・PRを図る。	○	○	○

主体者欄：(文) = 文化振興課、(生) = 生涯学習課、(関) = 関係課